



①多品種に及ぶワイヤハーネス
②鮮明な画像で不具合を入念に調査
③高い稼働率を続ける生産設備
④段取り替え時間が短い最新の機械
⑤社員休憩室。隣にはキッチンも

あおい せい さく しよ
株式会社 葵製作所

- 企画力
- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- ノウハウ技術
- 海外対応
- 連携力

代表取締役
とだ いさお
戸田 勲 さん



品質の高い製品をより効率的に生産する技術提案

我々は「お客様が求めておられる商品を提供することを第一とする」を理念に、日夜励んでいます。極細線対応機や両端より機、全自動機、各種検査機を常に競合他社に先駆けて導入し、品質の高い製品をより効率的に生産する技術提案を展開してきました。平成29年5月に設立50周年を迎えます。今後、半世紀にわたり蓄積した生産技術に磨きをかけ、さらにお役に立てる企業を目指します。

- 主な事業内容**
ワイヤハーネス加工、電線およびコード加工
- 主な取引先(納入先)**
産業機器メーカー、自動車部品メーカー、民生機器メーカー、医療機器メーカー、電子部品商社

住 所 / 〒570-0011
大阪府守口市金田町1-13-8
TEL / 06-6902-1334
FAX / 06-6905-5406
創 業 / 昭和39年5月
設 立 / 昭和42年5月
資本金 / 2,000万円
従業員 / 51名

<http://aoiseisakusyo.com/>

高品質のワイヤハーネス 大ロットも小ロットも対応

事業内容と沿革

顧客業種を多様化 量産品も多品種少量品も対応

電子部品や機器を接続して制御信号や電力の伝送を中継するワイヤハーネス(組み電線)を製造している。平成29年5月で設立50周年。旧 松下電器産業(株)〈現 パナソニック(株)〉向けのラジカセ用電線加工で創業し、カラーテレビ、洗濯機、ビデオデッキ向けへと、時代の流れとともに変わる需要に応え、事業を拡大してきた。

しかし家電生産の海外移転や、故障リスクを減らすために部品数を削減する設計開発が進み始めたことから、戸田勲社長は「このままではいずれ仕事

がなくなる」と危機意識を感じたという。このため平成元年に工場を刷新。産業機器向けのワイヤハーネス生産に取り組み始めた。

昭和63年時点では松下電器産業(株)向けが85%と1社への依存度が高かったが、現在は自動車、産業機器、医療機器向けなど幅広く生産し取引先も多様化している。家電向けと産業機器向け、異なる分野で培った技術を蓄積し、量産品も多品種少量品も対応可能なワイヤハーネスメーカーとして存在感を高めている。

強み

徹底した品質管理 顧客の安心感につなげる

「葵製作所」には、ロボットや航空機など高い品質を要求される分野からの引き合いも相次いでいる。顧客の仕様に合わせた特注生産や技術提案ができること、不具合の部品比率が約0.01ppm(ppmは100万分の1)と競合他社の約1ppmに比べ圧倒的に小さく、品質の高さで群を抜いているという強みがある。生産品種を変えるたびに、現物と電子顕微鏡画像で摩耗やキズに関する多数のチェック項目を確認し、画像はトレーサビリティのため保存。高いレベルの検査体制で信用獲得につなげてきた。

戸田社長は「生産設備と異なり、検査設備は直接お金を生み出すものではないが顧客の安心感につながる」とし、積極的に最新鋭の設備を導入する。平成27年には画像処理機を刷新し、より鮮明な画像で検査できるよう品質管理を一段と強化した。ワイヤハーネスは小さな部品だが不具合があれば信号が伝わらず、最終製品の価値にダメージを与えかねない重要部品。戸田社長は「品質は創業時から最優先してきたものであり、今後も変わらない」と信念を込めて語る。

納期対応

緻密な生産計画 機械稼働率を高め 短納期体制へ

同社が生産するワイヤハーネスは多品種であることに加え、3ヵ月に1本しか出ない小ロット品もあれば月1万本の量産品もあり、量の差が大きい。生産計画が複雑かつ緻密になる中で短納期を実現して利益を確保するのは容易なことではない。カギを握るのは、生産計画の立て方と機械の稼働率向上という。平成9年にハーネス生産に適したオリジナルの管理ソフトを製作してもらい、受注と図面、部材発注をパソコン管理に切り替え、管理体制を効率化。その後、顧客の発注計画をデータでもらって自社の管理ソフト用に変換するソフトも追加導入し部材発注を自動で反映させることで、転記ミスや部材の発注漏れによる生産計画の狂いをなくした。

一方、同種の電線を使っている品目や、同種の端子を使っている品目の生産を集約して各機械に割り当て、機械稼働率向上のネックとなる切り替えロスを低減している。平成24年に、電線切断から被膜剥離、端子圧着、予備はんだまででき、かつ段取り替え時間も短縮できる全自動圧着機を導入し、機械稼働率をさらに高めた。

今後の展開

人材育成と定着への投資 持続的成長へ

効率化につながる全自動機や、信頼性向上のための検査設備に積極投資する葵製作所が、新たに投資して強化し始めたのは人材。内部に複数被膜があり自動化できないケーブルや、複雑な組立、検査で「やはり熟練した従業員の技術は不可欠」と戸田社長は語る。

しかし国内雇用情勢の変化や周辺に大規模小売店ができたことで、パート従業員の新規採用が年々厳しくなり、現在雇用している従業員に「いかに、楽しく仕事を続けてもらうか」が重要。このため平成27年には本社工場の道路を挟んだ斜め前の一軒家を、従業員の更衣室兼休憩室として購入した。戸田社長は「工場の一角で休憩するより気分が切り替えられ、ゆったり休憩してもらえる」と笑顔を見せる。

定年者の再雇用についても「気持ち若ければ、60代後半くらいまでは大丈夫」と積極的に進める姿勢。人材の育成と定着を製品品質へつなげ、持続的成長を図る。